

MEE

受付案内システム

形名

CA-15HF5W (パールホワイト)

CA-15HF5M (マルーンブラウン)

CA-15HF5B (ダークグレー)

カスタマイズ説明書

コン コン コール®
Computer Conducting Call System

本説明書はシステムメンテナンスの詳細を説明したものです。

日常のお取り扱い等は、取扱説明書に記載していますので、そちらを参照してください。

目次

1	ご使用になる前に.....	1
1)	コンコンコール システムメンテナンスとは.....	1
2)	カスタマイズによる空き容量について.....	1
2	システムメンテナンス.....	2
1)	システムメンテナンス画面.....	2
◆	起動方法.....	2
◆	メニューバー.....	2
◆	ツールバー.....	3
◆	操作方法.....	3
2)	Contents フォルダ (画面コンテンツの情報).....	4
◆	Forms フォルダ (画面の情報).....	4
◆	Elements フォルダ (画面要素の情報).....	5
◆	WebPages フォルダ (Web ページの情報).....	11
3)	Resources フォルダ (データリソースの情報).....	12
◆	Languages フォルダ (言語の情報).....	12
◆	Texts フォルダ (文字列の情報).....	12
◆	Images フォルダ (画像の情報).....	13
◆	Sounds フォルダ (音声の情報).....	13
◆	Backgrounds フォルダ (背景の情報).....	14
	Videos フォルダ (動画の情報).....	15
◆	Musics フォルダ (音楽の情報).....	16
4)	Datas フォルダ (検索データの情報).....	17
◆	Companies フォルダ (組織の情報).....	17
◆	Categories フォルダ (分類の情報).....	17
◆	Sections フォルダ (連絡先の情報).....	18
5)	Others フォルダ (その他の情報).....	19
◆	Plugins フォルダ (拡張機能の情報).....	19
◆	Settings フォルダ (設定の情報).....	19
3	パラメータについて.....	22
1)	変数.....	22
◆	参照方法.....	22
◆	システム変数.....	22
2)	Resource(データリソース).....	24
◆	参照方法.....	24
3)	Data(検索データ).....	25
◆	参照方法.....	25
4)	スクリプト.....	25
◆	コマンド一覧.....	25
4	お手持ちのパソコンでデータをメンテナンスする.....	36
◆	メンテナンスツールのインストール.....	36
◆	USBメモリ等を使用する場合.....	37
◆	ネットワークに接続している場合.....	39

5	コンコンコールのカスタマイズ.....	40
1)	Forms の対応画面について.....	40
2)	Elements (画面要素)、HTMLs (Web) の配置位置.....	41
3)	カスタマイズ例.....	42
◆	名前で検索機能を無効にする.....	42
◆	無人時に省電力モードで待機する.....	42
◆	メニュー画面の「部門で検索」ボタンを「会社名で検索」に変更する.....	43
◆	言語選択ボタンを追加して多言語対応にする.....	43
◆	タイトル画面の組織名をロゴ (画像) に変更する.....	44
◆	画面にメッセージを追加する.....	45
◆	動画を変更する.....	46

1 ご使用になる前に

1) コンコンコール システムメンテナンスとは

表示される文章の変更、ボタンの色の変更、背景・BGM の変更など、お客様独自でシステムの設定を変更する時に使用します。

設定変更は、コンコンコール システムメンテナンス(以下システムメンテナンス)を使用します。

お願い： システムメンテナンスにはコンコンコールの動作に関わる内容が数多く登録されています。不用意に内容を変更されますとコンコンコールが正常に動作しなくなる恐れがあります。本書に書かれている内容を十分理解した上で操作してください。

2) カスタマイズによる空き容量について

データを追加することによりデータベースファイルのサイズが大きくなります。データベースファイルの最大サイズは、システムドライブ (C:) にデータベースファイルのサイズの 2 倍以上の空き容量を確保できるサイズまでとしてください。空き容量が少ないと動作不良の原因となります。

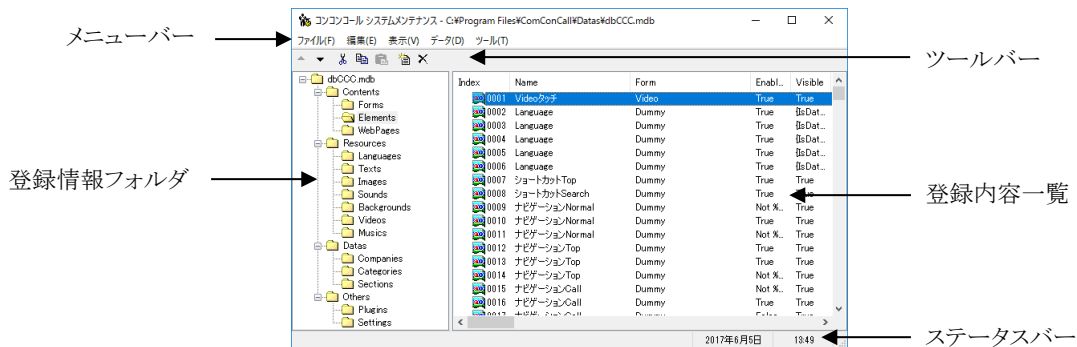
特に動画、背景、音声を追加する場合は空き容量に注意してください。

例) データベースファイルサイズが 200MB の場合、 $200\text{MB} \times 2 \text{ 倍} = 400\text{MB}$ の空き容量が必要です。

2 システムメンテナンス


1) システムメンテナンス画面

コンコンコールのカスタマイズは、システムメンテナンス画面を使用します。



◆ 起動方法

以下のいずれかで起動してください。

- デSKTOP上の「コンコンコール 7.0 管理メニュー」ショートカットアイコン()を実行し、**コンコンコール システムメンテナンス** を選択します。
- Windowsの「スタート」メニューから **すべてのプログラム(P) - コンコンコール Ver7.0 - コンコンコール7.0 システムメンテナンス** を選択します。

◆ メニューバー

ファイル(F)

- 外部データベース書き出し(バックアップ)...** ...外部のデータベースへデータのコピーを作成します。
- 外部データベース取り込み(復旧)...** ...外部のデータベースファイルからデータを取り込みます。
- データベースの修復(R)** ...データベースを修復します。
- システムメンテナンスの終了(X)** ...システムメンテナンス画面を終了します。

編集 (E)

- 切り取り (T)** ...選択しているデータを切り取ります。
- コピー (C)** ...選択しているデータをコピーします。
- 貼り付け (P)** ...コピーしたデータを貼り付けます。

表示 (V)

- ツールバー(T)** ...ツールバーの表示/非表示を設定します。
- ステータスバー (B)** ...ステータスバーの表示/非表示を設定します。
- バージョン情報 (A)** ...バージョン情報を表示します。







データ(D)

- 新規作成(N)** ...データを新規作成します。
- 削除(X)** ...選択しているデータを削除します。
- 上へ (U)** ...選択しているデータを上に移動します。
- 下へ (D)** ...選択しているデータを下に移動します。




ツール(T)

- インポート(I)** ...テキストファイルを選択されているフォルダに取り込みます。
- エクスポート(E)** ...選択されているフォルダの内容をテキストファイルとして出力します。

◆ ツールバー

-  対象データの順序を変更します。
-  対象データを切り取ります。
-  対象データをコピーします。
-  切り取りまたはコピーしたデータを貼り付けます。
-  データを新規作成します。
-  対象データを削除します。

◆ 操作方法

- ① 登録情報フォルダの中から目的のフォルダを選択します。
- ② 新しい項目を追加する場合は、**データ(D)－新規作成(N)** を選択します。(またはツールバーの  をクリックします。)
- ③ 既存の項目の内容を変更する場合は、登録内容一覧に表示されている目的のアイコンをダブルクリックまたはキーボードの **[Enter]** キーを押し、登録内容一覧画面を表示させます。
- ④ 既存の項目を削除する場合は、**データ(D)－削除(X)** を選択します。(またはツールバーの  をクリックします。)
- ⑤ 登録内容の順序を変える場合は、**データ(D)－上へ(U)** または **データ(D)－下へ(D)** を選択します。(またはツールバーの  をクリックします。)

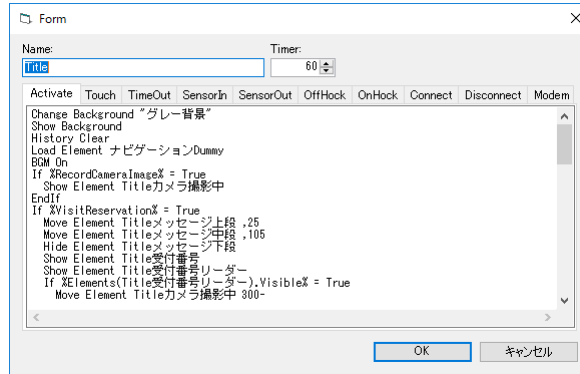
2) Contents フォルダ (画面コンテンツの情報)

システムの画面コンテンツに関するデータがまとめられています。

◆ Forms フォルダ (画面の情報)

コンテンツの画面(ページ)データである Form(画面)が登録されています。

Form(画面)には画面が表示されているときに発生する各種イベントに応じて実行するスクリプトを設定します。

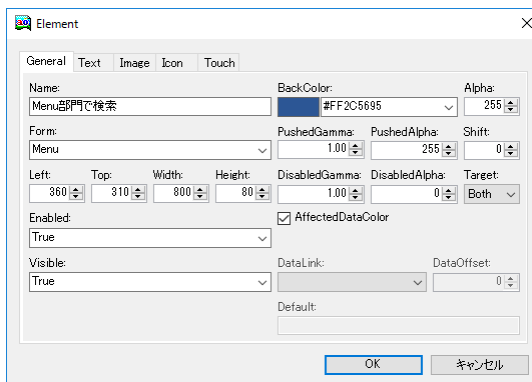


項目	説明																						
Name	画面の識別名を設定します。																						
Timer	無操作時間と判断するまでの秒数を設定します。外部からの入力無くイベントの発生がない時間がここに設定した秒数を越えた場合、後述の TimeOut イベントが発生します。0 に設定した場合、もしくは TimeOut に何も設定されていない場合無効となります。																						
イベントタブ	<p>イベントが発生したときに実行するスクリプトを設定します。スクリプトの記述方法や動作の種類など詳しくは「3 4) スクリプト」を参照してください。</p> <p>Form で発生するイベントは以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>イベント</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Activate</td> <td>画面(ページ)が表示されたときに発生します。</td> </tr> <tr> <td>Touch</td> <td>画面にタッチされたときに発生します。</td> </tr> <tr> <td>TimeOut</td> <td>Timer で設定された秒数分、外部からの入力が無かったとき発生します。</td> </tr> <tr> <td>SensorIn</td> <td>人感センサーが感知したとき発生します。</td> </tr> <tr> <td>SensorOut</td> <td>人感センサーが感知なくなったとき発生します。</td> </tr> <tr> <td>OffHock</td> <td>受話器を取ったとき発生します。(スピーカーフォン仕様では使用しません)</td> </tr> <tr> <td>OnHock</td> <td>受話器を置いたとき発生します。(スピーカーフォン仕様では使用しません)</td> </tr> <tr> <td>Connect</td> <td>呼び出し先の相手が電話に出たとき(回線の極性が反転したとき)発生します。(オプション機能)</td> </tr> <tr> <td>Disconnect</td> <td>通話が切断したとき(回線の極性が元に戻ったとき)発生します。(オプション機能)</td> </tr> <tr> <td>Modem</td> <td>モデムからの応答があったとき発生します。</td> </tr> </tbody> </table>	イベント	説明	Activate	画面(ページ)が表示されたときに発生します。	Touch	画面にタッチされたときに発生します。	TimeOut	Timer で設定された秒数分、外部からの入力が無かったとき発生します。	SensorIn	人感センサーが感知したとき発生します。	SensorOut	人感センサーが感知なくなったとき発生します。	OffHock	受話器を取ったとき発生します。(スピーカーフォン仕様では使用しません)	OnHock	受話器を置いたとき発生します。(スピーカーフォン仕様では使用しません)	Connect	呼び出し先の相手が電話に出たとき(回線の極性が反転したとき)発生します。(オプション機能)	Disconnect	通話が切断したとき(回線の極性が元に戻ったとき)発生します。(オプション機能)	Modem	モデムからの応答があったとき発生します。
イベント	説明																						
Activate	画面(ページ)が表示されたときに発生します。																						
Touch	画面にタッチされたときに発生します。																						
TimeOut	Timer で設定された秒数分、外部からの入力が無かったとき発生します。																						
SensorIn	人感センサーが感知したとき発生します。																						
SensorOut	人感センサーが感知なくなったとき発生します。																						
OffHock	受話器を取ったとき発生します。(スピーカーフォン仕様では使用しません)																						
OnHock	受話器を置いたとき発生します。(スピーカーフォン仕様では使用しません)																						
Connect	呼び出し先の相手が電話に出たとき(回線の極性が反転したとき)発生します。(オプション機能)																						
Disconnect	通話が切断したとき(回線の極性が元に戻ったとき)発生します。(オプション機能)																						
Modem	モデムからの応答があったとき発生します。																						

◆ Elements フォルダ（画面要素の情報）

画面（ページ）上に表示する画面要素データである Element（画面要素）が登録されています。

Element（画面要素）にはメッセージや画像などの表示する内容や表示位置、タッチされた時に実行するスクリプトなどを設定します。

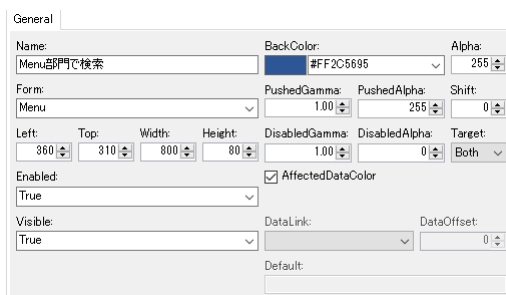


設定項目は機能毎にタブで以下のようにグループ化されています。

グループ(タブ) 説明

General	画面要素の基本的な情報です。
Text	表示する文字や文章に関する情報です。
Image	画面要素の背景となる画像の情報です。
Icon	Text や Image より前面に表示する画像(アイコン)に関する情報です。
Touch	画面要素がタッチされたときの動作に関する情報です。

• General タブ



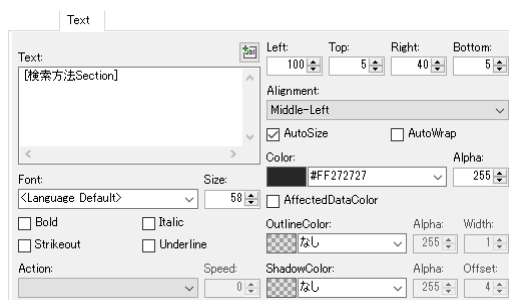
項目 説明

Name	画面要素の識別名を設定します。
Form	画面要素を表示する画面の名前(Name)を設定します。右側の ▾ をクリックして一覧から選択可能です。
Left	画面要素の表示横位置をピクセル単位で設定します。(0～1279) ※1
Top	画面要素の表示縦位置をピクセル単位で設定します。(0～1023) ※1
Width	画面要素の幅をピクセル単位で設定します。(1～1280) ※1
Height	画面要素の高さをピクセル単位で設定します。(1～1024) ※1

※1 範囲外に設定することも可能ですが画面要素が表示されない場合があります。コンテンツデータは SXGA サイズ(1280×1024ピクセル)で作成されていますが、15インチモデルの XGA サイズ(1024×768ピクセル)などでは自動的にリサイズして表示されます。

項目	説明
Enabled	画面要素の有効・無効を設定します。右側の <input type="checkbox"/> をクリックして一覧より選択するか、True (1) または False (0) となる式を指定します。False (0) が指定された場合、Event の機能が無効化されます。
Visible	この画面要素を表示する・しないを設定します。右側の <input type="checkbox"/> をクリックして一覧より選択するか、True (1) または False (0) となる式を指定します。False (0) が指定された場合表示は行われず、Event の機能も無効化されます。
BackColor、Alpha	画面要素の表示範囲を塗りつぶす背景色を設定します。Image 項目が設定されている場合画像にここで指定された色のフィルタがかけられます。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha には塗りつぶす背景色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
PushedGamma	画面要素がタッチされたときの文字や画像の明るさを-2.0~2.0 の範囲で設定します。数値が 0 に近づくほど暗くなります。負の値を設定した場合グレー表示されます。
PushedAlpha	画面要素がタッチされたときの文字や画像の透明度を 0~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
Shift	画面要素がタッチされたときの文字や画像の表示位置ズレ幅を設定します。
DisabledGamma	画面要素が無効化されているときの文字や画像の明るさを-2.0~2.0 の範囲で設定します。数値が 0 に近づくほど暗くなります。負の値を設定した場合グレー表示されます。
DisabledAlpha	画面要素が無効化されているときの文字や画像の透明度を 0~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
Target	DisabledGamma 及び DisabledAlpha の効果を適用する要素を設定します。右側の <input type="checkbox"/> をクリックして一覧より None (なし)、Fore (文字などの前景)、Back (イメージなどの背景)、Both (両方) のいずれかを選択します。
AffectedDataColor	Sections (連絡先) と関連付けられている場合、BackColor を割り当てられた Sections (連絡先) の Color で置き換えるかどうかを設定します。
DataLink	検索データ (Data) と関連付けを行うかどうかを設定します。右側の <input type="checkbox"/> をクリックして一覧より空白 (関連付けなし)、Sections (連絡先)、Languages (言語情報)、Categories (分類情報)、Companies (会社情報) のいずれかを選択します。同一画面上に複数の同様に関連付けされた画面要素が存在する場合、DataOffset に指定された内容に従いデータが割り当てられます。データの内容は変数として設定され、スクリプトやその他のパラメーターで利用することができます。変数に関する詳細は「 3 1) 変数 」を参照してください。
DataOffset	割り当てるデータのレコード位置を設定します。カレントレコードを 1 (カレントレコードのひとつ前は-1) として相対位置で指定します。0 を指定した場合は同一画面上に複数の同様に関連付けされた画面要素の Index の数字が小さいものから順にデータが割り当てられます。
Default	Sections (連絡先) と関連付けされている場合、追加のデータ抽出条件を設定します。データ抽出条件に合致するデータが存在しない場合には画面要素が無効化されます。

- Text タブ



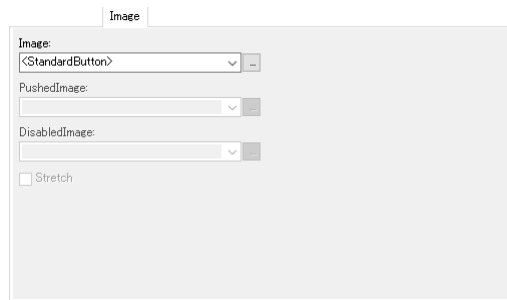
項目	説明
Text	表示する文字列を設定します。文字列は配置属性や文字属性を指定して自由なレイアウトをすることができます。変数や言語別の文字列情報、関連付けされた検索データの内容等を表示することができます。



配置属性及び文字属性は「<属性名=値>」のように「<>」で囲んで指定します。カンマ(,)により複数の属性を指定することができます。配置属性の場合は「<Layout 属性名=値>」のように「Layout」を先頭に追加します。以下に使用できる配置属性及び文字属性を示します。

属性名	配置属性	文字属性	説明
Alignment	<input type="radio"/>		文字列の描画範囲内での配置を指定します。指定できる値は Left 、 Center 、 Right 、 Top 、 Middle 、 Bottom 及びこれらの文字列の組み合わせです。
Left	<input type="radio"/>		文字列を配置する左端を画面要素の左端からの距離で指定します。
Top	<input type="radio"/>		文字列を配置する上端を画面要素の上端からの距離で指定します。
Right	<input type="radio"/>		文字列を配置する右端を画面要素の右端からの距離で指定します。
Bottom	<input type="radio"/>		文字列を配置する下端を画面要素の下端からの距離で指定します。
AutoSize	<input type="radio"/>		文字列のサイズ調整制御方法を指定します。自動調整する場合は True (1) 、自動調整しない場合は False (0) を指定します。
WordWrap	<input type="radio"/>		文字列の改行制御方法を指定します。自動改行する場合は True (1) 、自動改行しない場合は False (0) 、改行を抑制する場合は Exclude を指定します。
Font	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	文字列のフォント名を指定します。
Size	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	文字列のサイズを指定します。
Bold	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	文字列を太字にするかどうかを True または False で指定します。
Italic	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	文字列を斜体にするかどうかを True または False で指定します。
Color	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	文字列の色(色名または#から始まる8桁(RGB)または6桁(ARGB)の16進数)を指定します。

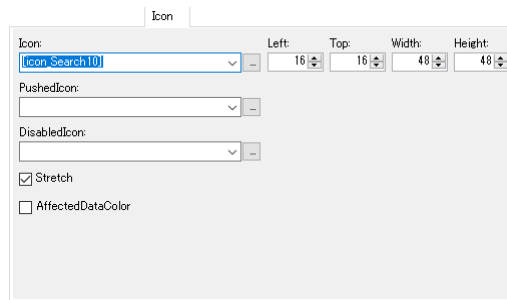
項目	説明
Font, Size, Bold, Italic, Strikeout, Underline	文字列を表示するフォントの名前、サイズ、スタイルを設定します。フォントの名前は右側の▼をクリックして一覧から選択可能です。<Language Default>を指定した場合、言語情報の Font で指定されたフォントが使用されます。
Action, Speed	文字列の動きを設定します。右側の▼をクリックして一覧より選択します。指定できる表示動作は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <指定なし> …… 文字列の動きはありません。 • HScroll …… 文字列を右から左へスクロールして表示します。 • VScroll …… 文字列を下から上へスクロールして表示します。 • Blink …… 文字列を点滅させて表示します。 Speed に動きの速さを指定します。スクロールの場合は値が大きくなるほど早くスクロールします。点滅の場合は値が大きくなるほどゆっくり点滅します。
Left	文字列を配置する左端を画面要素の左端からのピクセル数で設定します。
Top	文字列を配置する上端を画面要素の上端からのピクセル数で設定します。
Right	文字列を配置する右端を画面要素の右端からのピクセル数で設定します。
Bottom	文字列を配置する下端を画面要素の下端からのピクセル数で設定します。
Alignment	文字列の描画範囲内での配置を設定します。右側の▼をクリックして一覧より選択します。
AutoSize	文字列が表示範囲内に収まらない場合、表示範囲に収まるよう自動的に文字列を縮小するかどうかを設定します。表示範囲内に収まるかどうかの計算は Text 内の配置属性単位に行われます。
AutoWrap	文字列が表示範囲内に収まらない場合、表示範囲に収まるよう自動的に改行するかどうかを設定します。表示範囲内に収まるかどうかの計算は Text 内の配置属性単位に行われます。
Color, Alpha	文字列の色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha は文字列の色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
OutlineColor, Alpha, Width	文字列の縁取りの色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha には縁取りの色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。 Width には縁取りの幅を設定します。
ShadowColor, Alpha, Offset	文字列の影の色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha には影の色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。 Offset には文字列と影の距離を設定します。



- Image タブ



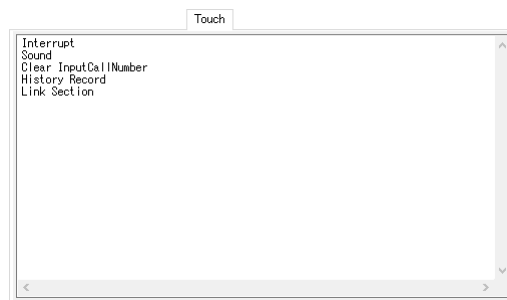
項目	説明
Image	<p>表示する画像の識別名を設定します。識別名は Images フォルダに登録したデータを使用する場合は角括弧「<code>[]</code>」で囲みます。ボタンなど既定のデザインのイメージを使用する場合は不等号括弧「<code><></code>」で囲みます。ファイルとして存在する画像を使用する場合は、コンコンコールのデータベースが存在するパスからの相対パスを指定します。</p> <p>頻繁に使用する画像は Images フォルダに登録することをお勧めいたします。これを参照することでシステムのパフォーマンスを向上させることができます。</p> <p>右側の  をクリックすると Images フォルダに登録されている画像を含む選択可能な一覧表示されますので、ここから選択することが可能です。右側の  をクリックするとファイルを開くダイアログが開きますのでここから画像ファイルを選択することが可能です。</p>
PushedImage	画面要素がタッチされたときに表示する画像の識別名を設定します。設定する内容は Image 項目と同様です。
DisabledImage	画面要素が無効化されているときに表示する画像の識別名を設定します。設定する内容は Image 項目と同様です。
Stretch	画像を画面要素の表示領域に合わせ拡大縮小して表示するかどうかを設定します。

• Icon タブ



項目	説明
Icon	表示するアイコンの識別名を設定します。識別名は Images フォルダに登録したデータを使用する場合は角括弧「 <code>[]</code> 」で囲みます。ファイルとして存在する画像を使用する場合は、コンコンコールのデータベースが存在するパスからの相対パスを指定します。 頻繁に使用する画像は Images フォルダに登録することをお勧めいたします。これを参照することでシステムのパフォーマンスを向上させることができます。 右側の  をクリックすると Images フォルダに登録されている画像を含む選択可能な一覧表示されますので、ここから選択することが可能です。右側の  をクリックするとファイルを開くダイアログが開きますのでここから画像ファイルを選択することが可能です。
PushedIcon	画面要素がタッチされたときに表示するアイコンの識別名を設定します。設定する内容は Icon 項目と同様です。
DisabledIcon	画面要素が無効化されているときに表示するアイコンの識別名を設定します。設定する内容は Icon 項目と同様です。
Stretch	アイコンをアイコンの表示領域に合わせ引き伸ばして表示するかどうかを設定します。
Left	アイコンの表示横位置を画面要素の左端からのピクセル数で指定します。
Top	アイコンの表示縦位置を画面要素の上端からのピクセル数で指定します。
Width	アイコンの幅をピクセル単位で指定します。
Height	アイコンの高さをピクセル単位で指定します。

• Touch タブ

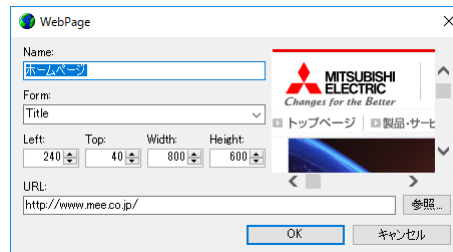


項目	説明
Touch	画面要素がタッチされた時に実行するスクリプトを設定します。スクリプトの記述方法や動作の種類など詳しくは「 3 4) スクリプト 」を参照してください。

◆ WebPages フォルダ (Web ページの情報)

画面(ページ)上に表示する Web ページ(HTML コンテンツ)データである WebPage(Web ページ)が登録されています。

WebPage(Web ページ)には Web ページの URL や表示位置などを設定します。本システムがネットワークに接続されていれば、ネットワーク上に存在する会社紹介や製品紹介などのホームページをインフォメーションとして表示することができます。



項目	説明
Name	Web ページの識別名を設定します。
Form	Web ページを表示する画面の名前(Name)を設定します。右側の▼をクリックして一覧から選択可能です。
Left	Web ページ表示領域の表示横位置をピクセル単位で設定します。(0~1279) ※1
Top	Web ページ表示領域の表示縦位置をピクセル単位で設定します。(0~1023) ※1
Width	Web ページ表示領域の幅をピクセル単位で設定します。(1~1280) ※1
Height	Web ページ表示領域の高さをピクセル単位で設定します。(1~1024) ※1
URL	Web ページへの URL を設定します。ローカルファイルを設定することもできますので、インターネットに接続することなく Web ページを表示することができます。
参照...	“ファイルを開く”ダイアログボックスを表示させ登録・変更する HTML ファイルを選択します。選択する HTML ファイルは、ローカルディスクに保存されているものに限りです。

※1 範囲外に設定することも可能ですが画面要素が表示されない場合があります。コンテンツデータは SXGA サイズ(1280×1024ピクセル)で作成されていますが、15インチモデルの XGA サイズ(1024×768ピクセル)などでは自動的にリサイズして表示されます。

3) Resources フォルダ (データリソースの情報)

システムで使用する既定のデータです。

◆ Languages フォルダ (言語の情報)

システムで使用する言語データである Language(言語)が登録されています。ここに登録されたデータは言語ごとの設定を持つ他の Resources(データリソース)や Datas(検索データ)の Language と連携します。

Language(言語)には表示名称や使用するフォントを設定します。

項目	説明
Name	言語の識別名を設定します。
Description	言語の表示名を設定します。
Font	この言語の既定のフォントを設定します。右側の▼をクリックして一覧から選択可能です。

◆ Texts フォルダ (文字列の情報)

言語ごとの文字列データである Text(文字列)が登録されています。

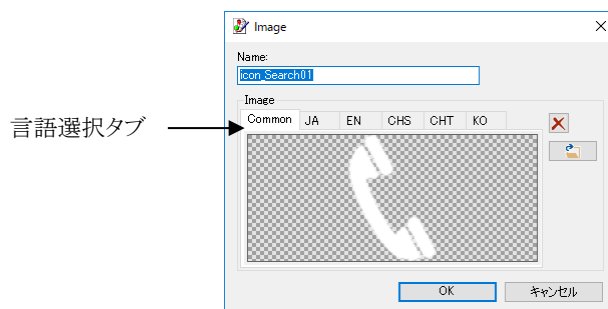
Text(文字列)には言語ごとに表示する文字列を設定します。



項目	説明
Name	文字列情報の識別名を設定します。
Text	言語ごとの文字列を設定します。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Images フォルダ (画像の情報)

言語ごとの画像データである Image (画像) が登録されています。

Image (画像) にはボタンの画像や会社のロゴなど頻繁に使用する画像を設定します。

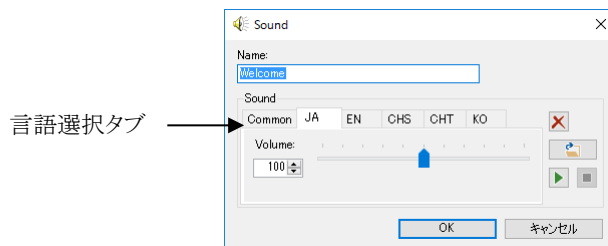





項目	説明
Name	画像の識別名を設定します。
Image	言語ごとの画像を設定します。表示される画像は実際に登録されているサイズとは異なります。
	“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する画像ファイルを選択します。選択できる画像ファイルは、Windows ビットマップファイル又は JPEG、PNG 形式です。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Sounds フォルダ (音声の情報)

言語ごとの音声データである Sound (音声) が登録されています。

Sound (音声) にはコンテンツで使用する効果音やアナウンスなどの音声を設定します。

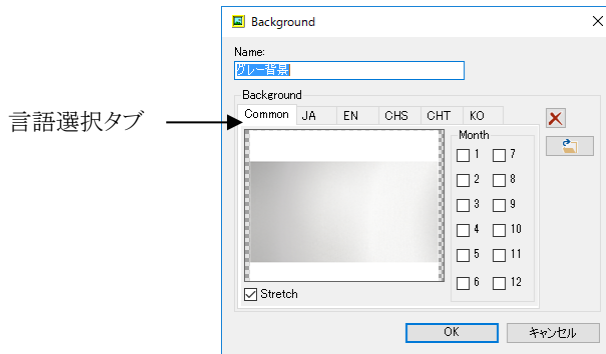




項目	説明
Name	音声の識別名を設定します。
Sound	言語ごとの音声を設定します。
Volume	音声のボリュームを 0 から 200 の範囲で設定します。100 を基準に 0 が最小、200 が最大です。
	“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する音声ファイルを選択します。選択できる音声ファイルは、Windows WAV ファイル形式です。
	登録されている音声を試聴するための再生と停止を行います。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Backgrounds フォルダ (背景の情報)

言語ごとの背景データである Background(背景)が登録されています。

Background(背景)にはコンテンツの背景として使用する画像データや日替わりで変更する場合の対象月を設定します。

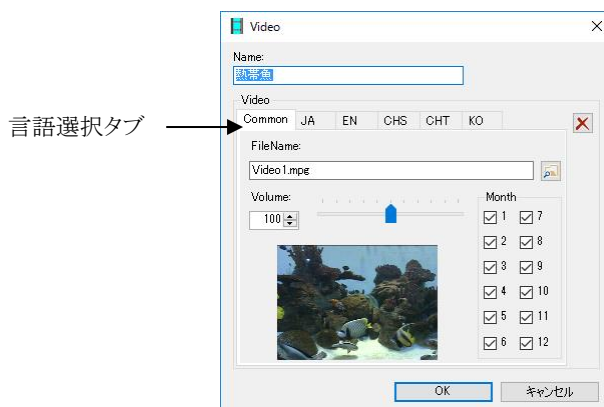




項目	説明
Name	背景の識別名を設定します。
Background	言語ごとの背景を設定します。表示される画像は実際に登録されているサイズとは異なります。
Stretch	背景の表示方法を設定します。チェックすると画像を画面全体に表示します。チェックしない場合、画像は登録されている大きさに画面全体に並べて敷き詰めます。
Month	背景を日替わりで表示させる場合の対象となる月を設定します。
	“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する画像ファイルを選択します。選択できる画像ファイルは、Windows ビットマップファイル又は JPEG、PNG 形式です。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

Videos フォルダ（動画の情報）

言語ごとの動画データである Video（動画）が登録されています。

Video（動画）にはコンテンツで再生する動画のファイル名や日替わりで変更する場合の対象月などを設定します。

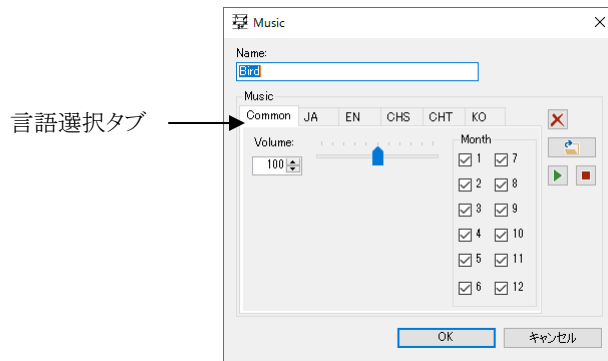





項目	説明
Name	動画の識別名を設定します。
Video	言語ごとの動画を設定します。表示される動画は実際に登録されているサイズとは異なります。
FileName	動画のファイル名を指定します。絶対パスまたはデータベースが存在するパスからの相対パスで指定します。データベースが存在するパスはシステムメンテナンス画面のタイトルバーに表示されたデータベースのパスから確認できます。
	<p>“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する動画ファイルを選択します。選択できる動画ファイルは、あらかじめ mpeg1 形式*で C:\Program Files\ComConCall\Datas フォルダに保存しておきます。</p> <p>※注意： 動画ファイルは mpeg1 形式のみ動作保証しております。他の形式の動画ファイルはご使用にならないでください。動作不良やフリーズの原因となる場合があります。</p>
Volume	音声のボリュームを 0 から 200 の範囲で設定します。100 を基準に 0 が最小、200 が最大です。
Month	動画を日替わりで表示させる場合の対象となる月を設定します。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ **Musics フォルダ (音楽の情報)**

言語ごとの音楽データである Music(音楽)が登録されています。

Music(音楽)にはコンテンツで再生する音楽データや日替わりで変更する場合の対象月などを設定します。



項目	説明
Name	音楽の識別名を設定します。
Music	言語ごとの音楽を設定します。
Volume	音楽のボリュームを 0 から 200 の範囲で設定します。100 を基準に 0 が最小、200 が最大です。
Month	音楽を日替わりで再生させる場合の対象となる月を設定します。
	“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する音楽ファイルを選択します。選択できる音楽ファイルは、Windows WAV ファイル形式です。
	登録されている音楽を試聴するための再生と停止を行います。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

4) Datas フォルダ (検索データの情報)

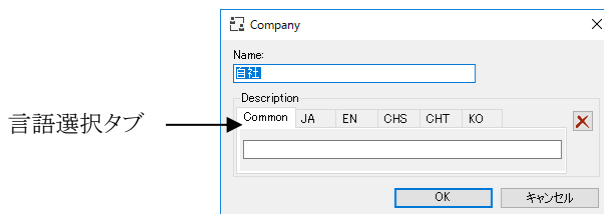
連絡先の検索などで使用されるデータです。

Element(画面要素)の DataLink 項目で関連付けした場合、そのパラメータ中で参照させる場合は[]記号(角括弧)で囲みます。

◆ Companies フォルダ (組織の情報)

システムで使用する組織データである Company(組織)が登録されています。ここに登録されたデータは Section(連絡先)の Company と連携します。

Company(組織)には言語ごとの表示名称を設定します。

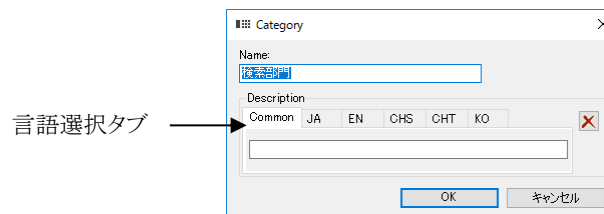


項目	説明
Name	組織の識別名を設定します。
Description	言語ごとの表示名称を設定します。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Categories フォルダ (分類の情報)

システムで使用する分類データである Category(分類)が登録されています。ここに登録されたデータは Section(連絡先)の Category と連携します。

Category(分類)には言語ごとの表示名称を設定します。



項目	説明
Name	分類の識別名を設定します。
Description	言語ごとの表示名称を設定します。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Sections フォルダ (連絡先の情報)

連絡先の検索対象データである Section (連絡先) が登録されています。

Section (連絡先) には部署や担当者などの連絡先の所属やフリガナ、内線番号などを設定します。

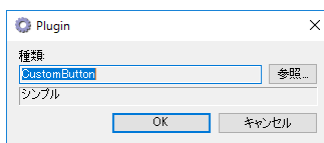
項目	説明
Name	連絡先の識別名を設定します。
Company	連絡先の組織を設定します。右側の▼をクリックして Companies (組織) の一覧から選択可能です。
Language	連絡先の言語を設定します。右側の▼をクリックして Languages (言語) の一覧から選択可能です。
Category	連絡先の分類を設定します。右側の▼をクリックして Categories (分類) の一覧から選択可能です。
Section1 ～ Section6	上位の連絡先の識別名を設定します。右側の▼をクリックして候補となる連絡先の一覧から選択可能です。
Initial	連絡先のフリガナを設定します。検索時に全角と半角や大文字と小文字、平仮名と片仮名の区別はされません。
Color, Alpha	連絡先の色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha は文字列の色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
CallNumber	連絡先の内線番号を設定します。改行して複数の内線番号が登録可能です。
Options	連絡先の追加情報を設定します。IP アドレスや役職名などオプション機能やコンテンツのカスタマイズなどの仕様により必要な情報を登録します。
EffectiveDate	連絡先を有効にする日時を設定します。空白は現在有効な内線データです。データメンテナンスで 2013 年 4 月 1 日 0 時の更新予約をすると、「2013/04/01 00:00:00」と表示されます。

5) Others フォルダ (その他の情報)

◆ Plugins フォルダ (拡張機能の情報)

Element (画面要素) を描写するための拡張機能である Plugin (拡張機能) が登録されています。

Plugin (拡張機能) には専用の dll ファイルを設定します。

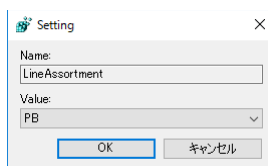


◆ Settings フォルダ (設定の情報)

システムが動作するための基本的な設定データである Setting (設定) が登録されています。

Setting (設定) には識別名と値を設定します。Setting (設定) には既定のシステム設定データ (一覧の種類欄に「システム」と表示) と、主にコンテンツの動作を制御するユーザー定義のデータ (一覧の種類欄に「ユーザー」と表示) があります。何れのデータも設定する内容によってはコンコンコールが正常に動作しなくなる場合もありますので、設定内容を変更される場合は各項目の意味をよく理解した上で行ってください。

Setting (設定) は変数と同様に扱われ、Element (画面要素) の各項目内やスクリプト内で使用することができます。



項目	説明
Name	設定の識別名を設定します。新規作成時はマウスの右クリックで既定のシステム設定データの一覧から選択可能です。
Value	言語ごとの表示名称を設定します。

以下にシステム設定データの一覧を示します。

名前	値の説明
AutoReboot	システムの自動再起動の間隔を 1 日 (Day)、1 週間 (Week)、自動再起動しない (None) の何れかで設定します。
AutoRebootTime	システムの自動再起動を行う時間を設定します。
BackupHourSpan	データベースが変更されてからバックアップを行うまでの猶予時間を設定します。
ButtonShadowAlpha	画面に表示するボタンの影の透明度 (0: 透明 ~ 255: 不透明) を設定します。
CallLogDBFilename	通話履歴データを保存するデータベースのパスを設定します。
CommPort	インターフェイスボードと通信するポート番号を設定します。インターフェイスボードを使用しない場合は 0 を設定します。
CommPort2	本体に内蔵されたオプションのインターフェイスボードと通信するポート番号を設定します。オプションのインターフェイスボードを使用しない場合は 0 を設定します。
ConnectSensitivity	極性反転検知センサーの反応速度をミリ秒単位で設定します。極性反転検知を使用しない場合は 0 を設定します。
ContactControlAssign	接点出力に使用する制御信号を DTR、RTS の何れかで設定します。
ContentsResolution	画面コンテンツの解像度を 1280×1024 (17 インチ用 SXGA)、1024×768 (15 インチ用 XGA)、800×600 (12 インチ用 SVGA) の何れかで設定します。

2.システムメンテナンス

名前	値の説明
ContinuousPlayback	動画の繰り返し再生の有効(True)/無効(False)を設定します。
CurrentSensorEnabled	極性反転検知センサーの種類が電流検知の場合はTrue、電圧検知の場合はFalseを設定します。
DataUpdateReservationEnabled	データ更新予約の有効(True)/無効(False)を設定します。
DetectLineReverse	回線の極性反転検出機能の有効(True)/無効(False)を設定します。(オプション)
DialDeregulation	発信規制を解除する(True)/しない(False)を設定します。
DoubleBackupDaySpan	データベースの2重バックアップを行うまでの日数を設定します。0 または設定が無い場合は2重バックアップを行いません。
EventLogEnabled	動作ログを出力しない(None)/イベントのみ(Event)/詳細(Detail)を設定します。
ExcludeCurrentLanguage	選択されている Language(言語)を一覧から除外する(True)/しない(False)を設定します。
ExcludeCurrentCompany	選択されている Company(組織)を一覧から除外する(True)/しない(False)を設定します。
ExcludeCurrentCategory	選択されている Category(分類)を一覧から除外する(True)/しない(False)を設定します。
EXSensorEnabled	オプションのセンサー入力の有効(True)/無効(False)を設定します。
FlipEffectSpeed	画面の切り替え効果アニメーションのコマ数を指定します。
HockSensorEnabled	現在は使用しません。(旧バージョンのシステムで使用)
IFBoardType	使用するインターフェイスボードのタイプを CA-B-8/CA-B-9 の何れかで設定します。
LineAssortment	接続されている電話回線のダイヤル方式をプッシュトーン(PB)、ダイヤルパルス(DP10 または DP20)の何れかで設定します。
ModemInitialize	モデムの初期化用 AT コマンドを設定します。
MotionDetectInterval	カメラ映像による動体検知の判定間隔をミリ秒単位で設定します。
MotionDetectLevel	カメラ映像による動体検知の判定レベルを設定します。
MotionDetectMaskImage	カメラ映像による動体検知のマスク画像ファイル名を設定します。
MotionDetectSuspendSecond	カメラ映像による動体検知の基準画像更新抑制時間を秒単位で設定します。
MotionDetectThreshold	カメラ映像による動体検知の画像変化量閾値を設定します。
MuteBGM	カスタマイズ対応用に予約されています。
MuteGuidance	カスタマイズ対応用に予約されています。
MuteTouch	カスタマイズ対応用に予約されています。
NoStatusWindow	起動画面(ステータスウィンドウ)の表示(True)/非表示(False)を設定します。
OffHockSensitivity	受話器のフック検知センサーの反応速度をミリ秒単位で設定します。受話器のフック検知を使用しない場合は0を設定します。(スピーカーフォン仕様では使用しません)
OutputContactA	カスタマイズ対応用に予約されています。
OutputContactB	カスタマイズ対応用に予約されています。
OutputContactC	カスタマイズ対応用に予約されています。
PhoneMicGain	スピーカーフォンのマイク感度を1~255の範囲で設定します。(標準値:64)
PhoneSpkGain	スピーカーフォンのスピーカー音量を1~255の範囲で設定します。(標準値:128)
RegulationNumber	発信規制をする番号を設定します。
ScheduleEnabled	スケジュール運転管理の有効(True)/無効(False)を設定します。
SendIOStatusInterval	ネットワーク通信でインターフェイスボードの各センサーの状態を送出する間隔をミリ秒単位で設定します。

名前	値の説明
SensorSensitivity	人感センサーの反応速度がミリ秒単位で設定します。人感センサーを使用しない場合は0を設定します。
SensorType	人感センサーの種類を動体検知 (MotionDetect) / インターフェースボード (IFBoard) の何れかで設定します。
ServerPort	ネットワーク通信を行う TCP ポート番号を設定します。
ShowCursor	マウスカーソルを常時表示する (True) / しない (False) を設定します。
StoragePath	カスタマイズ対応の為に予約されています。
SystemShutdownEnabled	スケジュール運転管理が有効な場合にシステム (OS) シャットダウンの有効 (True) / 無効 (False) を設定します。
SystemPassword	システム稼動時に 3 隅タッチにより表示されるシステムメニューを表示するためのパスワードを指定します。(システムメニューからパスワードを変更した場合には表示されません。システムメニューについては取扱説明書「 2 4 画面の3点タッチ(システムメニュー)」を参照してください。)

3 パラメータについて

Contents(画面コンテンツ)の Form(画面)や Element(画面要素)、WebPage(Web ページ)の各項目に記述するパラメーターには変数や Resource(データリソース)、Data(検索データ)を指定することができます。また Form(画面)と Element(画面要素)のイベント項目に記述するスクリプト中にも同様に変数や Resource(データリソース)、Data(検索データ)を埋め込むことができます。

1) 変数

通常変数はスクリプト中で「Set」コマンドにより定義され、パラメーター中で参照することでその値を利用することができます。また Setting(設定)や後述のシステム変数も通常の変数として参照することができます。

変数の識別名は大文字/小文字の区別はされません。

◆ 参照方法

変数の識別名を%記号で囲みます。

例): 変数「Variable」に値「サンプル」が設定されている場合

パラメーター値	参照結果
これは%Variable%です。	これはサンプルです。

◆ システム変数

変数にはシステムが自動的に値を設定する変数や、システムの動作を制御するための変数があります。これらをシステム変数と呼びます。

以下にシステム変数の一覧を示します。「設定」に○が付いたシステム変数はスクリプトにより変更が可能です。

システム変数名	内容	設定
ActiveForm	現在表示されている Form(画面)の識別名。	
CallNumber	選択された Section(連絡先)の CallNumbers の 1 行目。	
CallNumbers	選択された Section(連絡先)の CallNumbers。	○
CallNumber(n)	選択された Section(連絡先)の CallNumbers の n 行目。	
CallNumbersFilter	Section(連絡先)を絞り込むための CallNumbers 検索パターン※1。	○
Category	選択する Category(分類)の識別名。	○
CategoryDescription	選択された Category(分類)の Language で指定された Description。	
CategoriesIndex	現在抽出されている Categories(分類)の参照位置。	○
Color	選択された Sections(連絡先)の Color。	
Company	選択する Company(組織)の識別名。	○
CompanyDescription	選択された Company(組織)の Language で指定された Description。	
CompaniesIndex	現在抽出されている Companies(組織)の参照位置。	○
DataCount	現在抽出されている Sections(連絡先)の数。	
DataIndex	現在抽出されている Sections(連絡先)の参照位置。	○
Day	現在日付の日。(「01」～「31」)	
Hour	現在時刻の時。(「00」～「23」)	
HTMLDocumentTitle	HTML(Web ページ)で表示されたコンテンツのタイトル	

システム変数名	内容	設定
Index	直前に選択された Sections(連絡先)の Index。	○
Initial	直前に選択された Sections(連絡先)の Initial。	○
InitialFilter	Section(連絡先)を絞り込むための Initial 検索パターン※1。	○
IOOffHook	受話器のフック状態。「0」=オンフック、「1」=オフフック (スピーカーフォン仕様では使用しません)	
IOOnHook	受話器のフック状態。「0」=オフフック、「1」=オンフック (スピーカーフォン仕様では使用しません)	
IOSensor	人感センサーの状態。「0」=すべての人感センサーが非検知、「1」=何れか の人感センサーが検知	
IOSensor1	人感センサー1 の状態。「0」=非検知、「1」=検知	
IOSensor2	人感センサー2 の状態。「0」=非検知、「1」=検知	
IOSensorEx	人感センサー3(オプションセンサー)の状態。「0」=非検知、「1」=検知	
IOTalking	通話状態。「0」=非通話、「1」=通話	
IsIndex	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Index の値の 有無。「0」=無、「1」=有	
IsCallNumbers	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の CallNumbers の値の有無。「0」=無、「1」=有	
IsColor	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Color の値の 有無。「0」=無、「1」=有	
IsEnabled	Element(画面要素)の Enable。「0」=False、「1」=True	
IsName	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Name の値の 有無。「0」=無、「1」=有	
IsOptions	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Options の値 の有無。「0」=無、「1」=有	
IsPushed	Element(画面要素)の押し下げ状態。「0」=通常、「1」=押し下げ	
IsSection1	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Section1 の 値の有無。「0」=無、「1」=有	
IsSection2	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Section2 の 値の有無。「0」=無、「1」=有	
IsSection3	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Section3 の 値の有無。「0」=無、「1」=有	
IsSection4	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Section4 の 値の有無。「0」=無、「1」=有	
IsSection5	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Section5 の 値の有無。「0」=無、「1」=有	
IsSection6	Element(画面要素)に関連付けられた Sections(連絡先)の Section6 の 値の有無。「0」=無、「1」=有	
IsVisible	Element(画面要素)の Visible。「0」=無、「1」=有	
Minute	現在時刻の分。「00」~「59」	
ModemReturn	モデムの応答メッセージ。	
Month	現在日付の月。「01」~「12」	

システム変数名	内容	設定
Name	選択された Sections (連絡先) の Name。	○
NameFilter	Section (連絡先) を絞り込むための Name 検索パターン※1。	○
Option	選択された Sections (連絡先) の Options の 1 行目。	
Options	選択された Sections (連絡先) の Options。	○
Option(n)	選択された Sections (連絡先) の Options の n 行目。	
OptionsFilter	Section (連絡先) を絞り込むための Options 検索パターン※1。	○
Page	「Calc」コマンドにより計算されたページ数	
Pages	「Calc」コマンドにより計算された総ページ数	
Second	現在時刻の秒。(「00」～「59」)	
Section1	選択された Sections (連絡先) の Section1。	○
Section1Filter	Section (連絡先) を絞り込むための Section1 検索パターン※1。	
Section2	選択された Sections (連絡先) の Section2。	○
Section2Filter	Section (連絡先) を絞り込むための Section2 検索パターン※1。	
Section3	選択された Sections (連絡先) の Section3。	○
Section3Filter	Section (連絡先) を絞り込むための Section3 検索パターン※1。	
Section4	選択された Sections (連絡先) の Section4。	○
Section4Filter	Section (連絡先) を絞り込むための Section4 検索パターン※1。	
Section5	選択された Sections (連絡先) の Section5。	○
Section5Filter	Section (連絡先) を絞り込むための Section5 検索パターン※1。	
Section6	選択された Sections (連絡先) の Section6。	○
Section6Filter	Section (連絡先) を絞り込むための Section6 検索パターン※1。	
Sections	選択された Sections (連絡先) の Section1~Section6 を結合した値。	
SectionsStartLevel	システム変数「Sections」を結合する際の開始レベル。	○
SectionsSeparator	システム変数「Sections」を結合する際の区切り文字	○
Year	現在日付の年。(「0001」～「9999」)	

※1 検索パターン

パターンマッチングが利用できます。「*」は任意の 0 文字以上の文字にマッチし、「?」は 1 文字にマッチします。単独で「!」を指定した場合は 1 文字以上の文字列とマッチします。

2) Resource (データリソース)

Resources フォルダ (データリソースの情報) に登録された各種データは、パラメーター中で参照することでその値を利用することができます。

Resource (データリソース) の識別名は大文字/小文字の区別はされません。

◆ 参照方法

Resource (データリソース) の識別名を [] 記号 (角括弧) で囲みます。

例) : Resource (データリソース) である Text (文字列) の識別名が「メッセージ」というデータの Text 項目に「いらっしゃいませ。」が設定されている場合

パラメーター値	参照結果
ようこそ[メッセージ]	ようこそいらっしゃいませ。

3) Data (検索データ)

Element (画面要素)において DataLink 項目で関連付けられた Data (検索データ)は、パラメーター中で参照することでその値を利用することができます。

Data (検索データ)の識別名は大文字/小文字の区別はされません。

◆ 参照方法

Data (検索データ)の識別名を{}記号(波括弧)で囲みます。

例): Element (画面要素)の DataLink に「Sections」が指定されており、割り当てられた Section (連絡先)の Name 項目が「総務部」の場合

パラメーター値	参照結果
{Name}を呼び出す。	総務部を呼び出す。

4) スクリプト

スクリプトは複数のコマンド行が記述されたテキストであり、コマンド行は 1 つの「コマンド」とそのコマンドに必要な複数のパラメーターで構成されます。使用できるコマンドの一覧は次項の「**コマンド一覧**」を参照してください。

一般的なコマンド行の書式は以下の通りです。

[コマンド名] [パラメーター1] [パラメーター2] [パラメーター3]...

- ・ コマンド行のコマンド名と各パラメーターは空白文字列で区切って記述します。但しコマンド行の先頭にある空白文字列は無視されます。
- ・ セミコロン(「;」)で始まるコマンド行はコメントとして扱われ実行時には無視されます。
- ・ コマンド名及びパラメーターには変数を使用することができます。変数は変数名をパーセント記号(「%」)で囲むことで実行時にその変数の値に置き換えられ実行されます。また、DataLink により内線データと関連付けられた Element (画面要素)に設定するスクリプトでは、内線データの項目名を波括弧(「{}」)で囲むことでその内線データの項目の値に置き換えられます。

◆ コマンド一覧

スクリプト中に使用できるコマンドの一覧を以下に示します。

コマンド

パラメータ	説明
Add	変数の値に指定された数値を加算します。
変数名	対象の変数名を記述します。
値	加算する値を記述します。
BGM	Music (音楽)を BGM (環境音楽)として再生/停止します。
スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。
On	BGM を再生します。
Off	BGM を停止します。
BGV	Video (動画)を BGV (環境動画)として再生/停止します。
スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。
On	BGV を再生します。
Off	BGV を停止します。
再生領域	BGV を再生する画面領域を「Left,Top,Width,Height」の形式で記述します。(省略可能)

3.パラメータについて

コマンド		説明
パラメータ		
Calc		既定の計算を実行します。
種類		以下の一覧のいずれかを記述します。
	SectionsPage	一覧表示において 1 ページあたりパラメーター1 で指定された数分のデータを表示する場合の総ページ数と現在ページ数を、システム変数「DataCount」とシステム変数「DataIndex」を元に計算し、結果をそれぞれ変数「Pages」と変数「Page」に格納します。
	LanguagesPage	一覧表示において 1 ページあたりパラメーター1 で指定された数分のデータを表示する場合の総ページ数と現在ページ数を、システム変数「LanguagesCount」とシステム変数「LanguagesIndex」を元に計算し、結果をそれぞれ変数「Pages」と変数「Page」に格納します。
	CompaniesPage	一覧表示において 1 ページあたりパラメーター1 で指定された数分のデータを表示する場合の総ページ数と現在ページ数を、システム変数「CompaniesCount」とシステム変数「CompaniesIndex」を元に計算し、結果をそれぞれ変数「Pages」と変数「Page」に格納します。
	CategoriesPage	一覧表示において 1 ページあたりパラメーター1 で指定された数分のデータを表示する場合の総ページ数と現在ページ数を、システム変数「CategoriesCount」とシステム変数「CategoriesIndex」を元に計算し、結果をそれぞれ変数「Pages」と変数「Page」に格納します。
パラメーター		種類の説明で指示された値を記述します。
Change		システムの各種状態を変更します。
種類		以下の一覧のいずれかを記述します。
	Background	背景画像を Backgrounds(背景)の登録順に従い変更します。 パラメーター1 で識別名を指定して任意の Background(背景)に変更することができます。(省略可能) パラメーター2 で色(Black, Red 等の色名または#から始まる8桁または6桁の16進数)を指定してカラーフィルターとすることができます。(省略可能)
	BackColor	背景色をパラメーター1 で指定された色(Black, Red 等の色名または#から始まる8桁または6桁の16進数)に変更します。
	BGM	環境音楽を BGMs(環境音楽)の登録順に従い変更します。 パラメーター1 で識別名を指定して任意の BGM(環境音楽)に変更することができます。(省略可能)
	BGV	環境動画を BGVs(環境動画)の登録順に従い変更します。 パラメーター1 で識別名を指定して任意の BGV(環境動画)に変更することができます。(省略可能)
	Timeout	現在の Form(画面)の Timer 値をパラメーター1 で指定された値に変更します。
パラメーター1		種類の説明で指示された値を記述します。
パラメーター2		種類の説明で指示された値を記述します。
Clear		変数をクリア(削除)します。
変数名		対象の変数名を記述します。
CloseProcess		Process コマンドによって起動した外部実行モジュールを終了します。
識別名		Process コマンドで指定した識別名を記述します。

コマンド	パラメータ	説明
CutLeft	変数名	変数の値を指定された文字数だけ左から削除します。 対象の変数名を記述します。
	文字数	削除する文字数を記述します。
CutRight	変数名	変数の値を指定された文字数だけ右から削除します。 対象の変数名を記述します。
	文字数	削除する文字数を記述します。
Dial	パラメーター	電話回線にダイヤル発信します。 以下の一覧のいずれかを記述します。
	(省略)	変数「CallNumbers」の値の 1 行目の電話番号へダイヤル発信します。
	Next	変数「CallNumbers」の値の 2 行目の電話番号へダイヤル発信します。
	(電話番号)	指定された電話番号へダイヤル発信します。
Div	変数名	変数の値を指定された数値で除算します。 対象の変数名を記述します。
	値	除算する値を記述します。
Else		If コマンドまたは ElseIf コマンドで条件が満たされない場合に実行するコマンド行の始まりを示します。
ElseIf		If コマンドで条件が満たされない場合に、再度指定された条件式を評価し、条件が満たされた場合に実行するコマンド行の始まりを示します。条件式の詳細は If コマンドを参照してください。
	パラメーター1	If コマンドを参照してください。
	比較演算子	If コマンドを参照してください。
	パラメーター2	If コマンドを参照してください。
EndIf		If コマンド、ElseIf コマンド、Else コマンドにより実行するコマンド行の終わりを示します。
Execute	ファイル名	外部アプリケーションを起動し、終了するまでメインウィンドウを非表示にして待機します。 外部アプリケーションの実行モジュールファイル名を記述します。
	引数	外部アプリケーションに渡すコマンドライン引数を記述します。
Fix	変数名	変数の値の小数点以下を切り捨てます。 対象の変数名を記述します。
Get	変数名 1	変数の値を取得し別の変数へ格納します。 値を取得する変数名を記述します。
	変数名 2	値を格納する変数名を記述します。省略した場合は変数「GetResult」に値を格納します。
GetData		現読み込まれている Sections (連絡先) データからシステム変数「DataIndex」が指すレコードの値を項目名と同名の変数へ格納します。

3.パラメータについて

コマンド	
パラメータ	説明
Halt	インターフェイスボードの各種センサー検知によるイベントの発生を一時的に無効化します。無効化が解除された時点で各種センサーの状態のイベントが発生します。
種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> Sensor 人感センサー全てのイベント発生を無効化します。 Sensor1 人感センサー1のイベント発生を無効化します。 Sensor2 人感センサー2のイベント発生を無効化します。 Sensor3 人感センサー3(オプションセンサー)のイベント発生を無効化します。 SensorEX 人感センサー3(オプションセンサー)のイベント発生を無効化します。 OffHock 受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。* OnHock 受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。* Handset 受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。* Connect 極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。 Disconnect 極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。 Talking 極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
	※ スピーカーフォン仕様では使用しません。
時間	無効化する秒数を記述します。
Hide	画面に表示されている各種オブジェクトを非表示にします。
種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> Background 背景画像を非表示にします。パラメーターは使用しません。 MessageBox ステータスウィンドウを非表示にします。パラメーターは使用しません。 Element パラメーターで指定された Element(画面要素)を非表示にします。 Screen メインウィンドウを非表示にします。パラメーターは使用しません。
パラメーター	種類の説明で指示された値を記述します。
HideMessageBox	ステータスウィンドウを非表示にします。
History	画面表示の記録を操作します。
種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> Back 記録された画面をひとつ遡り表示します。 パラメーター1で画面切り替え効果を指定できます。 Forward 記録された画面をひとつ進め表示します。 パラメーター1で画面切り替え効果を指定できます。 Discard 直前の記録を破棄し画面を復元します。 パラメーター1で画面切り替え効果を指定できます。 Clear 全ての記録をクリア(削除)します。 Renew 過去の記録を破棄し現在からの記録を開始点とします。 Record 現在表示中の画面を記録します。
パラメーター1	種類の説明で指示された値を記述します。
HTMLExec	HTML(Web ページ)の HTMLドキュメント(IE コンポーネント)に対しコマンドを実行させます。コマンドの詳細についてはインストールされている Internet Explorer のドキュメントを参照してください。
識別名	対象の HTML(Web ページ)の識別名を記述します。
コマンド	HTMLドキュメントに実行させるコマンドを記述します。
パラメーター	HTMLドキュメントに実行させるコマンドのパラメーターを記述します。

コマンド	パラメータ	説明
If		条件式を評価し、条件が満たされた場合に実行するコマンド行の始まりを示します。 条件式の評価は基本的に文字列での比較となりますが、パラメーター1 とパラメーター2 が共に数値として認識できる場合は数値としての比較が行われます。
	パラメーター1	パラメーター2 と比較する任意の値を記述します。
	比較演算子	以下の一覧のいずれかを記述します。 = パラメーター1 とパラメーター2 が等しいとき条件を満たします。 == パラメーター1 とパラメーター2 が等しいとき条件を満たします。 < パラメーター1 がパラメーター2 より小さいとき条件を満たします。 > パラメーター1 がパラメーター2 より大きいとき条件を満たします。 <= パラメーター1 がパラメーター2 以下のとき条件を満たします。(=<も可) >= パラメーター1 がパラメーター2 以上のとき条件を満たします。(=>も可) != パラメータ 1 とパラメータ 2 が異なるとき条件を満たします。 <> パラメーター1 とパラメーター2 が異なるとき条件を満たします。(=<>も可) Like パラメーター1 がパラメーター2 のパターンに一致するとき条件を満たします。 (パターン文字:「*」0 個以上の文字、「?」任意の一文字)
	パラメーター2	パラメーター2 と比較する任意の値を記述します。
Interrupt		イベント発生時に実行途中のスクリプトに割り込み、このコマンド以降のスクリプトを実行します。
	パラメーター1	以下の一覧のいずれかを記述します。 (省略) イベント発生前に未実行であったスクリプトを破棄します。 Keep このコマンドが実行された後、イベント発生前に未実行であったスクリプトを実行します。
KillProcess		Process コマンドによって起動した外部実行モジュールを強制終了します。
	識別名	Process コマンドで指定した識別名を記述します。
Link		新しい Form (画面) を表示します。
	識別名	新しい Form (画面) の識別名を記述します。
	効果	以下の一覧のいずれかを記述します。 (省略) 新しい Form (画面) を表示します。(アニメーションなし) Clear 一旦背景画像のみを表示した後、新しい Form (画面) を表示します。 Fade 新しい Form (画面) がフェードインします。 SlideIn 新しい Form (画面) が右からスライドインします。 SlideOut 現在の Form (画面) が左へスライドアウトします。 ZoomIn 新しい Form (画面) がタッチ (クリック) した位置から現れます。 ZoomOut 現在の Form (画面) がタッチ (クリック) した位置へ向かって消えます。
Load		各種データを読み込みます。
	種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 Data データ抽出用の変数に設定されている条件で Sections (連絡先) を読み込みます。(識別名は使用しません) Element 識別名で指定された Element (画面要素) を読み込み画面に表示します。 HTML 識別名で指定された HTML (Web ページ) を読み込み画面に表示します。
	識別名	読み込むデータを特定する識別名を記述します。

3.パラメータについて

コマンド	パラメータ	説明
Monitor		ディスプレイモニタの電源(省電力モード)の設定を行います。
	スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。 On ディスプレイモニタの電源を On にします。(省電力モード解除) Off ディスプレイモニタの電源を Off にします。(省電力モード設定)
Move		各種データの位置を移動します。
	種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 Element 識別名で指定された Element (画面要素) の表示位置を移動します。 パラメーター1 で識別名を指定します。 パラメーター2 で画面領域を「 Left,Top,Width,Height 」の形式で指定します。 DataIndex 有効な Sections (連絡先) の参照位置 (システム変数「 DataIndex 」の値) を移動します。 パラメーター1 で現在位置からの相対移動量を指定します。 LanguagesIndex 有効な Languages (言語) の参照位置 (システム変数「 LanguagesIndex 」の値) を移動します。 パラメーター1 で現在位置からの相対移動量を指定します。 CompaniesIndex 有効な Companies (組織) の参照位置 (システム変数「 CompaniesIndex 」の値) を移動します。 パラメーター1 で現在位置からの相対移動量を指定します。 CategoriesIndex 有効な Categories (連絡先) の参照位置 (システム変数「 CategoriesIndex 」の値) を移動します。 パラメーター1 で現在位置からの相対移動量を指定します。 パラメーター1 種類の説明で指示された値を記述します。 パラメーター2 種類の説明で指示された値を記述します。
Mul		変数の値を指定された数値で乗算します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
	値	乗算する値を記述します。
Navigate		HTML (Web ページ) で表示する Web ページの URL を変更します。
	識別名	対象の HTML (Web ページ) の識別名を記述します。
	URL	表示する Web ページの URL を記述します。
OffHock		擬似的に受話器を取った状態にします。
OnHock		回線を切断します。
ProgramEnd		コンコンコールを終了します。
Process		パラメーターで指定された実行モジュールを起動します。コンコンコールの実行は継続します。
	識別名	実行モジュールを特定する識別名を記述します。
	ファイル名	実行モジュールのファイル名を記述します。
	パラメーター	実行モジュールに渡す起動コマンドラインオプションを記述します。
RaiseEvent		Form のイベントを強制的に発生させます。
	種類	イベント名 (Activate 、 Touch 、 TimeOut 、 SensorIn 、 SensorOut 、 OffHock 、 OnHock 、 Connect 、 Disconnect 、 Modem のいずれか) を記述します。

コマンド パラメータ	説明
ReceiveModem	モデムからの応答を待ちます。
Refresh	画面を再描画します。
Reset 種類	各種状態をリセットします。 以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> Application コンコンコールのメインプログラムを再起動します。 Events 実行待ちのスクリプトを破棄します。 Timer 無操作時間をリセットします。 System コンピューターを再起動します。 Language Language(言語)を初期値(最初に登録されたデータ)にリセットします。 Company Company(組織)を初期値(最初に登録されたデータ)にリセットします。 Category Category(分類)を初期値(最初に登録されたデータ)にリセットします。
Rotate 変数名 回数	変数に格納されている複数行の文字列の先頭行を末尾に移動します。 対象の変数名を記述します。 移動する回数を記述します。
Round 変数名 桁数	変数の値を四捨五入します。 対象の変数名を記述します。 四捨五入する小数点以下の桁数を記述します。
Save 変数名	変数の値をデータベースに保存します。 対象の変数名を記述します。
SendCommControl パラメーター	インターフェイスボードの制御線の制御を行います。 以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> SETRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を On にします。 CLRRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を Off にします。 SETDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を On にします。 CLRDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を Off にします。 SETMAINRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を On にします。 CLRMAINRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を Off にします。 SETMAINDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を On にします。 CLRMAINDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を Off にします。 SETSUBRTS インターフェイスボード(サブ)の RTS 信号線を On にします。 CLRSUBRTS インターフェイスボード(サブ)の RTS 信号線を Off にします。 SETSUBDTR インターフェイスボード(サブ)の DTR 信号線を On にします。 CLRSUBDTR インターフェイスボード(サブ)の DTR 信号線を Off にします。

3.パラメータについて

コマンド	説明
パラメータ	説明
SendControl	インターフェイスボードの制御を行います。
種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> Audio 電話回線への音声出力状態を変更します。 Contact2 接点出力2の出力状態を変更します。 Detect 回線極性検知の状態を変更します。 Handset 受話器の回線への接続状態を変更します。* Speaker スピーカーの音声出力状態を変更します。
	※ スピーカーフォン仕様では使用しません。
スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> On 状態を On(有効)に設定します。 Off 状態を Off(無効)に設定します。
時間	種類で「Contact2」が指定された場合に、状態が復帰するまでの秒数を記述します。省略または「0」を記述した場合は状態の復帰は行いません。
SendModem	インターフェイスボードのモデムに対し AT コマンドを送ります。
AT コマンド	モデムに送る AT コマンドを記述します。
SendProcess	「Process」コマンドにより起動した実行モジュールに対しデータを送信します。
識別名	実行モジュールを特定する識別名を記述します。
パラメーター	実行モジュールに渡すデータを記述します。
SendSecket	ネットワーク通信で接続されたソケットにデータを送信します。
パラメーター	送信するデータを記述します。
SendWinMessage	WM_COPYDATA メッセージを送信します。
識別名	送信先を識別するウィンドウタイトルを記述します。
パラメーター	送信するデータを記述します。
	COPYDATA 構造体に設定される値は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> dwData 「1」固定 cbData lpData のバイト数 lpData UTF-8 でエンコードしたパラメーターで指定された文字列
Set	変数に値を設定します。
変数名	対象の変数名を記述します。
値	設定する値を記述します。
パラメーター	「Save」を記述すると設定した値をデータベースに保存します。(省略可能)
Shift	変数に格納されている複数行の文字列の先頭行を削除します。
変数名	対象の変数名を記述します。
回数	削除する回数を記述します。

コマンド	パラメータ	説明
Show	種類	画面に表示される各種オブジェクトを表示します。 以下の一覧のいずれかを記述します。
	Background	背景画像を表示します。 パラメーター1 に背景画像 (Background) の識別名を指定することで任意の背景画像を表示できます。 パラメーター2 は使用しません。
	MessageBox	ステータスウィンドウを表示します。 パラメーター1 で指定された文字列がステータスウィンドウ内に表示されません。 パラメーター2 は使用しません。
	Element	Element (画面要素) を表示します。 パラメーター1 に表示する Element (画面要素) の識別名を指定します。 パラメーター2 に表示する領域を「 Left,Top,Width,Height 」の形式で指定します。(省略可能)
	Screen	メインウィンドウを表示します。パラメーター1、パラメーター2 は使用しません。
	パラメーター1	種類の説明で指示された値を記述します。
	パラメーター2	種類の説明で指示された値を記述します。
	ShowMessage	ステータスウィンドウを表示します。
	パラメーター	ステータスウィンドウ内に表示する文字列を記述します。
	Sleep	システムを停止状態にし、ディスプレイモニタの電源を Off にします。
Sound	識別名	Sounds (音声) に登録された音声データを再生します。 再生する Sound (音声) の識別名を記述します。
	ボリューム	再生する音声の音量を 1~200 の範囲で記述します。(省略時は 100 と同等)
	スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。
	(省略)	SendControl コマンドで設定されたデバイスに音声を出力します。
	Speaker	スピーカーのみに音声を出力します。
	Telephone	電話回線のみに音声を出力します。
	Repeat	繰り返し再生します
Sub	変数名	変数の値を指定された数値で減算します。 対象の変数名を記述します。
	値	減算する値を記述します。

3.パラメータについて

コマンド	
パラメータ	説明
Suspend	インターフェイスボードの各種センサー検知によるイベントの発生を一時停止します。停止が解除された時点では各種センサーの状態のイベントは発生しません。
種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> Sensor 人感センサー全てのイベント発生を無効化します。 Sensor1 人感センサー1のイベント発生を無効化します。 Sensor2 人感センサー2のイベント発生を無効化します。 Sensor3 人感センサー3(オプションセンサー)のイベント発生を無効化します。 SensorEX 人感センサー3(オプションセンサー)のイベント発生を無効化します。 OffHock 受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。* OnHock 受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。* Handset 受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。* Connect 極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。 Disconnect 極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。 Talking 極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
	※ スピーカーフォン仕様では使用しません。
時間	停止する秒数を記述します。
Unload	画面に表示される各種データを開放します。
種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 <ul style="list-style-type: none"> Element 識別名で指定された Element(画面要素)を開放します。 HTML 識別名で指定された HTML(Web ページ)を開放します。
識別名	解放するデータを特定する識別名を記述します。
Video	動画ファイルを再生します。
動画ファイル名	再生する動画のファイル名を記述します。
音量	再生する動画の音量を 0～150 の範囲で記述します。(省略時は 100 と同等)
再生領域	再生する動画の位置を「Left,Top,Width,Height」の形式で指定します。(省略可能)

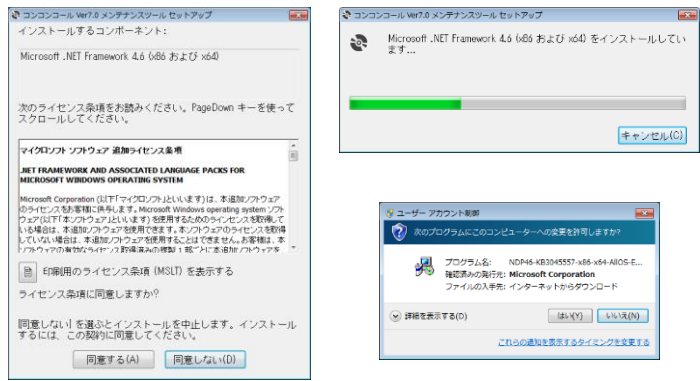
コマンド	パラメータ	説明
Wait	条件	条件が満たされている間処理を一時停止します。 以下の一覧のいずれかを記述します。
	(秒数)	指定された秒数の間停止します。パラメータは使用しません。
	Dial	モデムがダイヤル処理中の間停止します。パラメータは使用しません。
	If	パラメータで指定された条件式が満たされている間停止します。条件式の詳細は「If」コマンドを参照してください。
	LineReverse	電話回線の極性がパラメータで指定された状態の間停止します。パラメータには「On」(極性反転している間)または「Off」(極性反転していない間)を記述します。
	OffHock	受話器が上がっている間(オフフック状態)停止します。パラメータは使用しません。*
	OnHock	受話器が置かれている間(オンフック状態)停止します。パラメータは使用しません。*
	Process	「Process」コマンドで起動された実行モジュールが実行中の間停止します。パラメータには実行モジュールを特定する識別名を記述します。
	Sound	「Sound」コマンドで開始された Sound (音声) が再生中の間停止します。パラメータは使用しません。
	Talk	通話中の間停止します。パラメータは使用しません。
	Video	動画が再生中の間停止します。パラメータは使用しません。 * スピーカーフォン仕様では使用しません。
パラメータ	条件の説明で指示された値を記述します。	
Wakeup		システムの停止状態を解除し、ディスプレイモニタの電源を On にします。
WriteLog	パラメータ	ログを出力します。 以下の一覧のいずれかを記述します。
	Dial	通話ログを出力します。通話ログはデータベースが存在するフォルダ内の「DialLog」フォルダに日付ごとのファイルとして記録されます。また、変数「CallLogDBFilename」に設定されている通話履歴データへも同時に記録されます。
	(文字列)	動作ログに指定された文字列を出力します。動作ログはデータベースが存在するフォルダ内にファイル「Event.log」として保存されます。

4 お手持ちのパソコンでデータをメンテナンスする

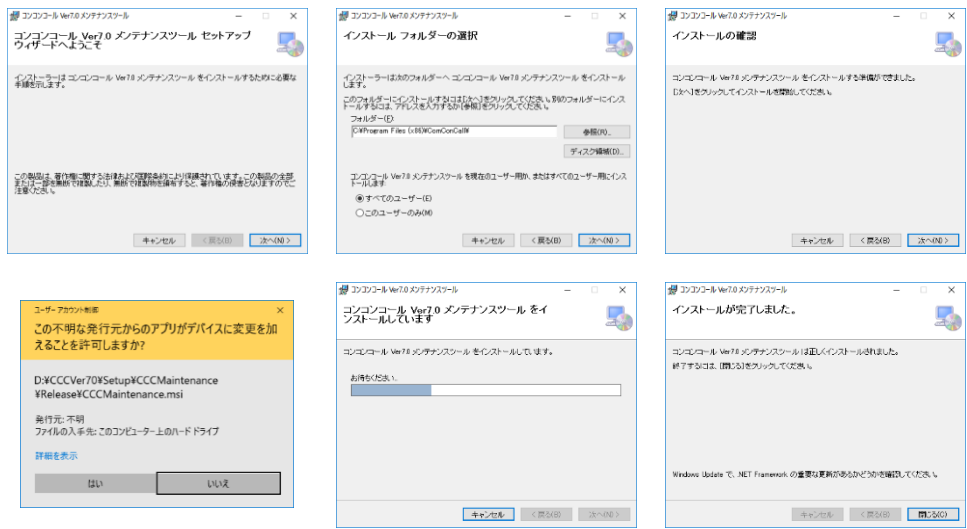
お手持ちのパソコンにメンテナンスツールをインストールして、データのメンテナンスを行うことができます。

◆ メンテナンスツールのインストール

- ① データのメンテナンス用に用意したパソコンに、コンコンコール セットアップ CD-ROM を挿入します。
- ② CD-ROM の自動再生機能によりセットアップが起動します。セットアップが自動的に起動しない場合は、Windows の「スタート」メニューから **プログラムとファイルの検索** に「D:¥Setup¥Setup.exe」と入力してセットアップを実行してください。(CD-ROMドライブが D:の場合)
- ③ 本プログラムは Microsoft .NET Framework 4.6 を必要とします。使用する端末にインストールされていない場合は Microsoft .NET Framework 4.6 のインストール画面が表示されます。ライセンス条項を確認の上、**同意する(A)** をクリックしてインストールしてください。
インストール途中でユーザーアカウント制御で「次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか？」と表示された場合は **はい(Y)** をクリックしてください。

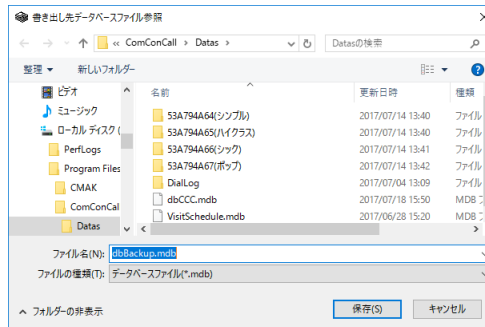


- ④ メンテナンスツールのセットアップウィンドウが表示されたら **次へ(N)** をクリックします。
インストール先のフォルダを指定し、インストールするユーザーのタイプを指定します。
インストール途中でユーザーアカウント制御で「この不明な発行元からのアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合は **はい** をクリックしてください。
セットアップが終了し、「セットアップの完了」のウィンドウが表示されたら **閉じる(C)** をクリックします。



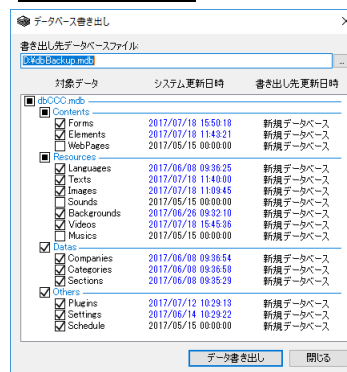
◆ USBメモリ等を使用する場合

- ① メンテナンスツールをインストールした端末のコンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② データを編集します。
- ③ メニューバーから **ファイル(F)ー外部データベース書き出し(バックアップ)** を選択します。
- ④ 保存先ディレクトリ、ファイル名を指定し **保存** をクリックします。(保存先をUSBメモリ等に設定します。)



参考: スケジュール運転管理の場合はメニューバーより **ファイル(F)ー外部データベース書き出し(W)** を選択します。

- ⑤ 編集した対象データを選択して **データ書き出し** をクリックします。



- ⑥ 書き出し終了のメッセージが表示されるので **OK** をクリックします。
- ⑦ USBメモリ等をコンコンコール本体にセットします。
- ⑧ 画面の3点タッチより、**データ取り込み** をクリックします。

参考: パスワードや指紋認証付きの USB メモリを使用している場合は、画面の3点タッチより Windows 画面に戻り USB メモリのロックを解除した後、コンコンコールシステムメンテナンスを起動し、**ファイル(F)ー外部データベース取り込み(復旧)** を選択してデータを取り込んでください。

4.お手持ちのパソコンでデータをメンテナンスする

- ⑨ データ取り込みダイアログが開き、データの検索が始まります。手動で取り込むデータを指定する場合は、**検索中止** をタッチして目的のデータを指定してください。



- ⑩ 目的のデータが表示されたら、取り込む項目をクリックして、**取り込み** をクリックします。目的のデータベースが「参照先データベースファイル名」の一覧に表示されない場合は **再検索** をクリックするか、「参照先データベースファイル名」の一覧から「その他のデータベースファイルを参照...」を選択して直接データベースファイルを指定してください。



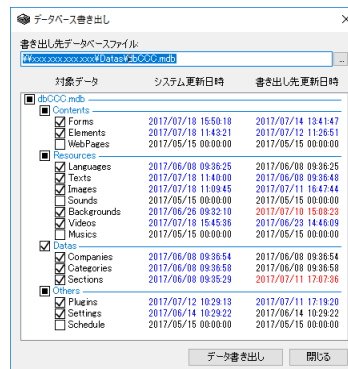
- ⑪ データベースの最適化が行われ、プログラムが再起動します。
⑫ データが更新されているか確認してください。

◆ ネットワークに接続している場合

- ① メンテナンスツールをインストールした端末のコンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② データを編集します。
- ③ メニューバーから **ファイル(F) - 外部データベース書き出し(バックアップ)** を選択します。
- ④ **ファイル名(N)** に「¥¥¥XXX.XXX.XXX.XXX¥Datas¥dbCCC.mdb」を入力し **保存(S)** をクリックします。
(XXX.XXX.XXX.XXX はコンコンコール本体に設定したIPアドレス)
「Windows セキュリティ」ウィンドウが表示される場合がありますが、この場合 **ユーザー名** に「ccc」、**パスワード** に「ccc」を入力し、**資格情報を記憶する** にチェックを入れてください。



- ⑤ 編集した対象データを選択して **データ書き出し** をクリックします。



- ⑥ 書き出し終了のメッセージが表示されるので **OK** をクリックします。

参考: スケジュール運転管理の場合はメニューバーより **ファイル(F) - 外部データベース書き出し(W)** を選択します。


5 コンコンコールのカスタマイズ

1) Forms の対応画面について

標準仕様での画面です。カスタマイズを行っている場合は一致しないことがあります。

対応画面はシンプルな日本語画面です。

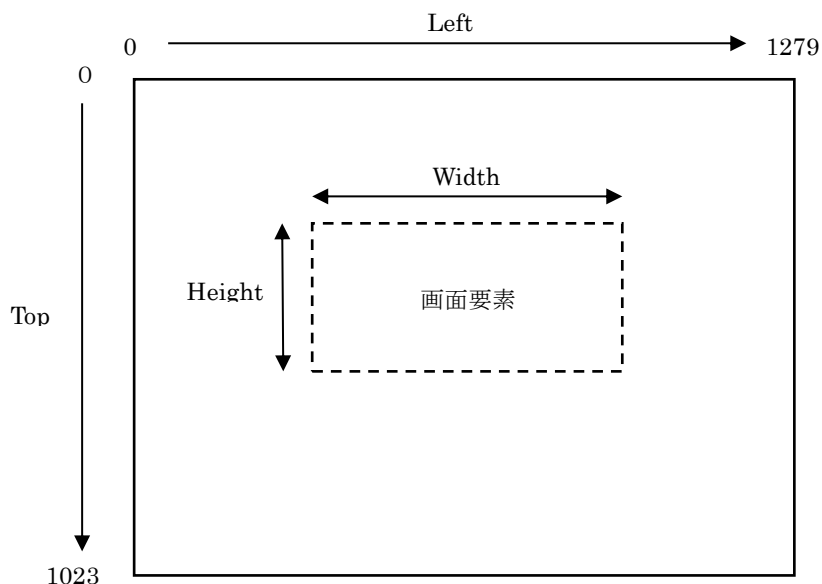
Index	Name	対応画面	備考
0001	Startup		起動時はここからスタートします。通常は表示されません。Activate タブの内容を実行後、TopForm 画面に移行します。
0002	Video		動画画面です。
0003	Title		タイトル画面です
0004	Company		組織選択画面です。複数の組織が登録されている場合に表示されます。
0005	Menu		メニュー画面です。
0006	Section		部門検索画面です。
0007	Name		名前検索画面のフリガナ入力画面です。
0008	Person		名前検索画面の絞込み結果画面です。
0009	Number		内線番号入力画面です。

Index	Name	対応画面	備考
0010	Dial		呼び出し中画面です。
0011	Talk		通話中画面です。
0012	Door		ドア開錠画面です。 電気開錠オプションを利用する場合に表示されます。
0013	NG		無効な受付番号画面です。 来訪予約機能を利用して無効な受付番号が入力されたときに表示されます。
0014	Dummy		ダミー画面です。通常は表示されません。 スクリプト中の「Load」コマンドで読み込んで表示する画面要素の Form 選択用に使用します。

2) Elements (画面要素)、HTMLs (Web) の配置位置

画面及び画面要素の基準は左上となっています。(画面の左上が Left=0,Top=0、右下が Left=1279,Top=1023)

画面要素のサイズを Width と Height で設定します。



画面サイズが15インチの場合は 1024×768 ピクセルにリサイズして表示します。

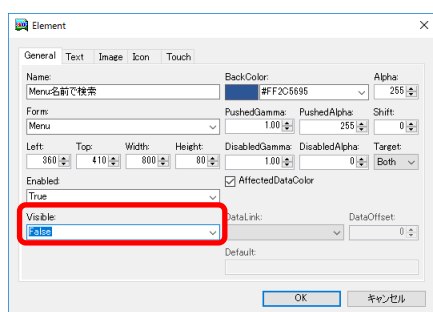
3) カスタマイズ例

ここでは、コンコンコールをより快適にお使い頂くため、いくつかカスタマイズの設定手順をご紹介します。

◆ 名前で検索機能を無効にする

メニュー画面の「名前で検索」ボタンを表示しないよう設定し、機能を制限します。

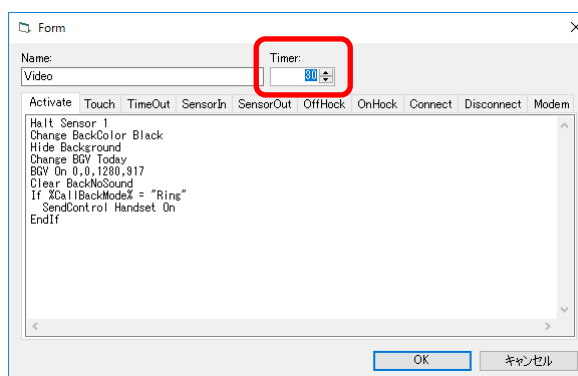
- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Contents」-「Elements」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「Menu 名前で検索」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ General タブの Visible を「False」に変更し、**OK** をクリックします。
- ④ システムメンテナンスを終了します。
- ⑤ コンコンコールを起動し、メニュー画面にボタンが表示されないことを確認します。



◆ 無人時に省電力モードで待機する

動画画面で一定時間来訪者が無い場合、ディスプレイモニタを省電力モードにして待機します。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Contents」-「Forms」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「Video」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ Timer 欄に省電力モードへ切り替えるまでの秒数を設定し、**OK** をクリックします。
値が「0」の場合は省電力モードに移行しません。

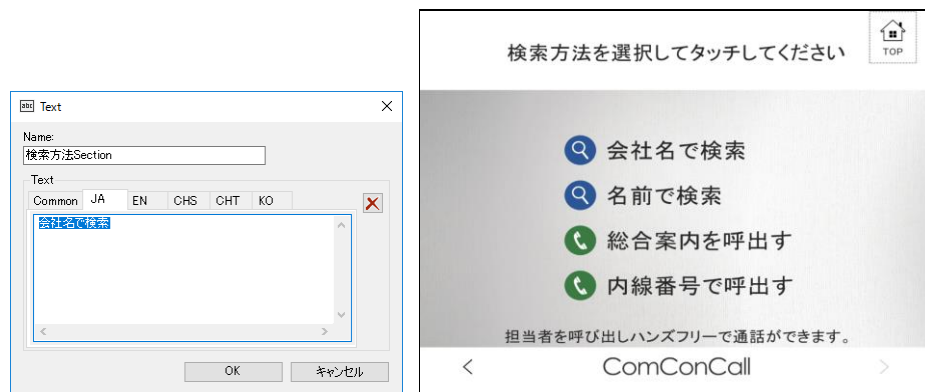


- ④ システムメンテナンスを終了します。
- ⑤ コンコンコールを起動し、動画画面から指定時間後ディスプレイモニタの表示が消え、また人感センサーまたは画面をタッチすることでディスプレイモニタの表示が復帰することを確認します。

◆ メニュー画面の「部門で検索」ボタンを「会社名で検索」に変更する

複数の会社で使用する場合など、「部門で検索」ボタンを「会社名で検索」に変更します。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Resources」-「Text」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「検索方法 Section」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ 言語タブの「JA」を開き内容を「会社名で検索」に変更し、**OK** をクリックします。
- ④ 日本語以外の画面も変更する場合は、言語タブでその他の言語（「EN:英語、CHS:簡体中国語、CHT:繁体中国語、KO:韓国語」）のデータも同様に変更します。
- ⑤ システムメンテナンスを終了します。
- ⑥ コンコンコールを起動し、「会社名で検索」に変更されていることを確認します。

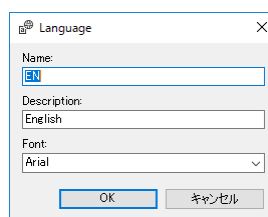


◆ 言語選択ボタンを追加して多言語対応にする

タイトル画面に言語選択ボタンを表示し、多言語対応にします。標準で対応している言語は日本語、英語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語です。

例えば「English」ボタンをタッチすることによって、表記・アナウンスが英語に変わります。


- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Resources」-「Languages」フォルダを選択し、新規作成します。
- ③ Name 欄に新たな言語の識別名、Description 欄に表示名を入力し、Font 欄にその言語で使用するフォントを選択し、**OK** をクリックします。

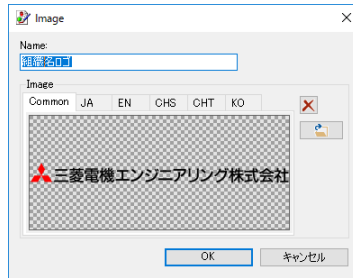



- ④ 更に言語を追加する場合は②③を繰り返します。
- ⑤ 登録情報フォルダの「Resources」-「Text」フォルダを選択し、登録内容一覧にあるデータすべてに対し追加した言語のタブにその言語の文字列（訳文）を登録します。
- ⑥ システムメンテナンスを終了します。
- ⑦ 必要に応じコンコンコールデータメンテナンスから追加した言語の連絡先データを登録します。
- ⑧ コンコンコールを起動し、新たな言語が追加されていることを確認します。

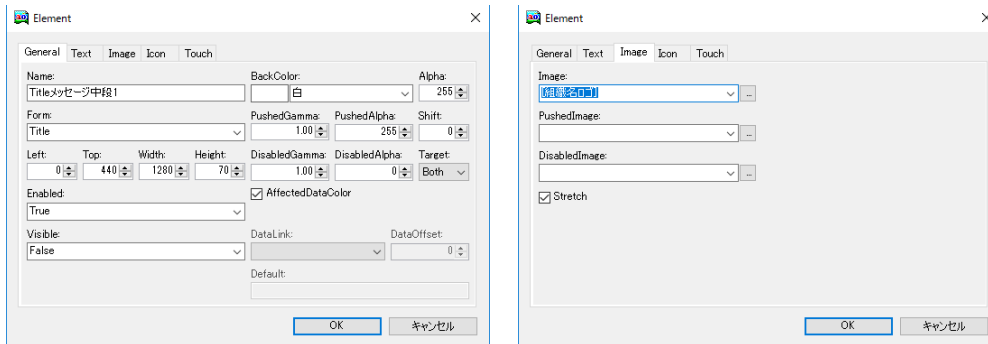
◆ タイトル画面の組織名をロゴ(画像)に変更する

タイトル画面の「○○○○へ」をロゴに変更します。

- ① ロゴの画像を用意します。背景を透明にできる PNG 方式で作成すると見栄えが良くなります。表示サイズは 1280×1024 ピクセル以内としてください。
- ② コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ③ 登録情報フォルダの「Resources」-「Images」フォルダを選択し、新規作成します。
- ④ Name 欄に「組織名ロゴ」を入力し、 をクリックして用意した画像を登録します。言語ごとに違う画像を使用する場合は言語タブそれぞれに画像を登録し、**OK** をクリックします。



- ⑤ 登録情報フォルダの「Contents」-「Elements」フォルダを選択し、「Title メッセージ中段 1」をダブルクリックで開きます。
- ⑥ General タブの組織名のロゴを表示する位置と大きさを Left・Top・Width・Height 欄に入力し、BackColor 欄に「白」を指定します。
- ⑦ Text タブの Text 欄「[社名]」を削除します。
- ⑧ Image タブの Image 欄に「[組織名ロゴ]」と入力し、**OK** をクリックします。Image 欄は  をクリックして一覧から選択も可能です。Stretch にチェックを入れると Width・Height で指定したサイズに画像をリサイズして表示します。



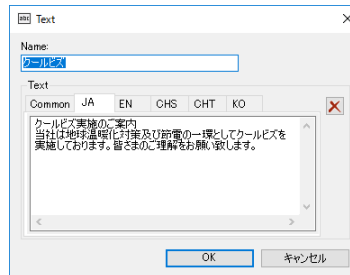
- ⑨ 「Title メッセージ中段 2」をダブルクリックで開き、同様に⑥⑦の手順を実施します。
- ⑩ システムメンテナンスを終了します。
- ⑪ コンコンコールを起動し、ロゴが表示されることを確認します。



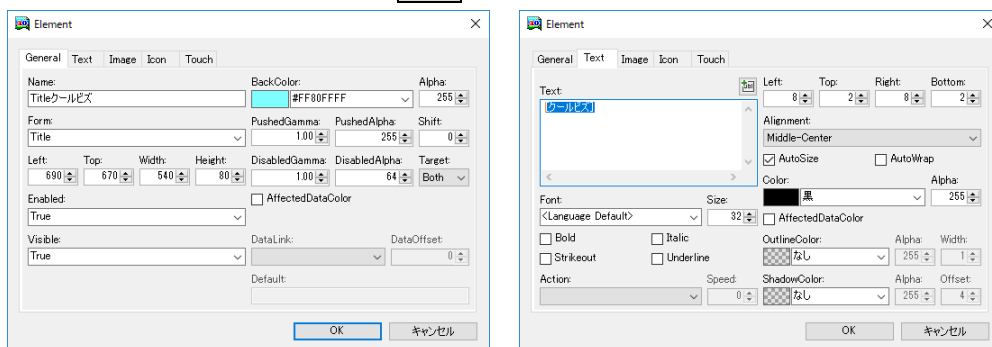
◆ 画面にメッセージを追加する

任意の画面にメッセージを追加します。例としてタイトル画面のカメラ撮影中の表示を右に寄せ、クールビズの案内を表示します。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Resources」-「Text」フォルダを選択し、新規作成します。
- ③ Name 欄に「クールビズ」と入力し、言語タブの「JA」を選択してメッセージを入力します。
言語ごとに違うメッセージを使用する場合は言語タブそれぞれにメッセージを入力し、**OK** をクリックします。



- ④ 登録情報フォルダの「Contents」-「Elements」フォルダを選択し、「Title カメラ撮影中」をダブルクリックで開きます。
- ⑤ General タブの Left 欄を「50」に変更し、**OK** をクリックします。
- ⑥ データを新規作成して General タブの Name 欄を入力し、Form 欄で「Title」を選択し、Left・Top・Width・Height 欄にそれぞれ 690・670・540・80 を入力します。お好みにより BackColor(背景色) 欄や Image タブの Image 欄を変更して表示領域を装飾します。
- ⑦ Text タブの Text 欄に「[クールビズ]」と入力して Font 欄で文字のフォントや大きさを設定します。Font 欄に「<Language Default>」を設定すると言語ごとに設定されたフォントが使用されます。AutoSize にチェックを入れると、表示領域に収まらない場合に縮小して表示します。Left・Top・Width・Height で余白を設定します。Color 欄で文字色を変更し、**OK** をクリックします。



※ 文字に縁取りを付けたり、文字をスクロールして表示することも可能です。詳細は「2 2) Contents フォルダ(画面コンテンツの情報)」の「Elements(画面要素の情報)」を参照してください。

- ⑧ システムメンテナンスを終了します。
- ⑨ コンコンコールを起動し、メッセージが表示されることを確認します。



◆ 動画を変更する

標準仕様の動画を用意した動画に変更します。

- ① 動画ファイルを用意します。

画像サイズ.....1024×768 ピクセル(15インチモデル推奨)

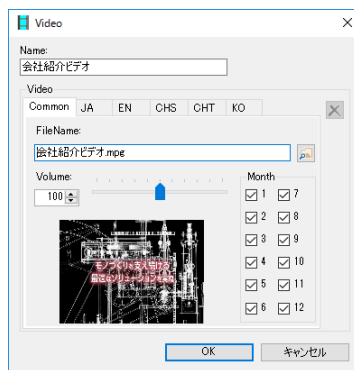
1280×1024 ピクセル(17インチモデル推奨)

異なる画像サイズでも登録可能です。その場合はリサイズして表示します。

ワイド(16:9)で表示させる場合は下項を参照してください。

ファイル形式...MPEG1(.mpg)

- ② 用意した動画ファイルを C:\Program Files\ComConCall\Datas フォルダ内にコピーします。
- ③ コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ④ 登録情報フォルダの「Resources」-「Videos」フォルダを選択し、標準で登録されているデータを削除します。
- ⑤ データを新規作成し、 をクリックして C:\Program Files\ComConCall\Datas フォルダ内の動画ファイルを選択してプレビューに動画が再生されることを確認します。
言語ごとに違う動画を使用する場合は言語タブそれぞれに動画を登録し、**OK** をクリックします。



- ⑥ システムメンテナンスを終了します。
- ⑦ コンコンコールを起動し、動画が再生されることを確認します。

※ ワイド(16:9)で動画を表示させる場合

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Contents」-「Forms」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「Video」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ Activate タブの「BGV On 0,0,1280,917」を「BGV On 0,98,1280,720」に変更します。
- ④ **OK** をクリックし、システムメンテナンスを終了します。
- ⑤ コンコンコールを起動し、動画がワイドで表示されることを確認します。



輸出管理に関するお願い

当システム実現するためのコンピューターやソフトウェアによっては、輸出貿易管理令別表第1の8の項、貨物等省令第7条第一号第八に該当する貨物となりますので、当システム及びパソコンを海外在住者、海外法人など非居住者に提供する場合には、外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第48条第1項に基づく役務取引許可輸出許可が必要となります。

Microsoft®、Windows®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Windows®CE は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

その他、記載されているプログラム名、CPU 名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

受付案内システム カスタマイズ説明書

発行日 2021年2月 (初版発行)

発行責任 三菱電機エンジニアリング株式会社

〒508-0015 岐阜県中津川市手賀野 3-40

本プログラムおよびマニュアルは無断で複製することを禁止します。

本書の内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。

53A952B1401